



高橋恒男先生を偲んで

二ツ川 章二

元日本アイソトープ協会常務理事であり、元滝沢研究所長として仁科記念サイクロトロンセンターの運営に多大なる貢献をされた高橋恒男先生が7月20日お亡くなりになりました。82歳でした。

高橋先生は東北大学医学部卒業後、同大学、福島県立医大等でご活躍されましたが、当協会とのつながりは、故郷に帰り、岩手医科大学放射線科助教授に就任されてからより強くなりました。故柳澤融岩手医科大学放射線科教授が放射線治療の専門家でしたので、高橋先生は核医学の専門家として、岩手医科大学のみならず岩手県全体の核医学発展に尽力され多くの専門家を輩出されました。平成元年の放射性医薬品の不正請求が問題となった“ミドリ十字未承認検査薬事件”では、大変な困難の中、問題の解決に奔走したと聞いています。また、平成7年から11年までは日本核医学会の理事としてもご活躍されました。

平成2年、岩手県滝沢村（現滝沢市）に仁科記念サイクロトロンセンターが設立されてからは、同センターのPET核医学の研究・共同利用の推進に参画し、同センターPET核医学の基礎を築き、発展に貢献されました。当時はPET核医学の黎明期であり、同センターが全国14番目のPETサイクロトロン施設としてPET核医学の発展に貢献できたのはひとえに高橋先生のご指導があつてのことでした。岩手大学保健管理センター教授を経て、平成12年日本アイソトープ協会滝沢研究所所長に就任、

PET核医学の指導だけでなく、医師の立場から医療分野から発生する放射性廃棄物の安全で安定的な処理の実施のために岩手県、滝沢村等の行政機関とのパイプ役を果たされました。平成14年からは日本アイソトープ協会常務理事に就任され、環境整備部門全体を担当されました。また、医薬・薬学部会サイクロトロン核医学専門委員会委員としても長年にわたりご活躍されました。

研究者・指導者としては、同門の研究者の仁科記念サイクロトロンセンターでの成果の二重投稿が発覚した際に同研究者に半年間の立ち入り禁止の厳格なる処分を科す等、一貫して厳しい目で研究活動を推進されました。また、医師として、自家用車通勤が多く運動不足気味である滝沢研究所職員の健康管理にも注視していただき、健康診断で再検査等の結果が出ると、すぐにご自分で医療機関に連絡し検査日を予約する等、優しい目で健康指導していただきました。

高橋先生はせっかちなところがあり、大変な電話魔でもありました。少しでも不明確なことがあると、いたるところに電話をかけまくり、問題解決に当たりました。会議の最中に、突然「高橋だけど」と電話が来ることもありましたが、一刻も早く、正確な事実を確認するという高橋先生の前向きな姿勢の現れる一面でもありました。優しく、活発な奥様と大変仲の良い夫婦生活を築かれ、よく海外の学会に奥様同伴で出席されていました。また、お酒も嗜まれ、滝沢研究所職員との会合も楽しみにしていらっしゃいました。クラシック音楽をこよなく愛し、いつの年末であったか、クリスマスコンサートを聴くためにウィーンに行かれるのだと楽しそうにお話をされていたのが昨日のように思い出されます。

仁科記念サイクロトロンセンターの足跡には、いたるところに高橋恒男先生のお名前が刻まれております。もう、あの優しいお顔と囁かれるようなお声に接することができないのかと考えると誠に残念です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

（日本アイソトープ協会）